

事例研究～中国ビジネス法務

(第58回) 現地の日系企業への直接的な影響は?～人口政策が一人っ子 から二人っ子へ

北京市大地律師事務所 / 日本部
パートナー弁護士 法学博士 熊琳

中国政府は、35年間にわたり「一人っ子」政策を実施してきましたが、今年11月に公布された『国民経済と社会発展にかかる第13次5カ年計画についての中国共産党中央委員会の建議』により、「夫婦が2人目の子供を産むことを許可する政策の全面的な実施」（「二人っ子政策」）が提案されました。11月10日、国家衛生計画出産委員会は、記者会見を開き、二人っ子政策に関する内容について説明を行いました。今後も各省レベルの政府機関等が、相次いで政策の具体的な施行の方法を発表しつつあるかと思われます。今回は、中国政府の人口管理制度と政策の重要な変更としての二人っ子政策が日系企業にどのような影響を与えるかについて、簡単ながら分析を致します。

◇二人っ子政策が企業の経営に影響を与えたケース

A社は、日本独資の製造メーカーで、多くの女子従業員をかかえています。以前は一人っ子政策が実施されていたため、女子従業員は1人目の子供を出産後、比較的穏やかで安定した勤務状態を長期にわたり維持することができていました。しかし二人っ子政策の施行により、社内では1人目の子供を出産した女子従業員が2人目の出産準備に入ること、一部のポストでは突然の人手不足となる事態が発生しました。会社の当初の人事計画に乱れが生じ、A社では、人事異動を行ったり、新たな従業員を募集する等の対応を迫られることになりました。

◇二人っ子政策が日系企業に与える影響

1. 二人っ子政策の発表には、中国の人口構造が高齢化し、若い労働力が不足しつつあるという傾向が反映されています。今後20年ないし30年の間に、労働力人口は減少を続け、現地企業では労働力の確保がますます困難となることが予測されます。また一方では、経済成長そのものが収入レベルの上昇をもたらす、企業の労働力に対する需要を満足させられなくなることも、雇用コストが持続的に押し上げられる傾向がますます強まることになるでしょう。

2. 上述のケースのように、2人目の出産を希望する現地企業の女子従業員の数が増え、重要なポストにある従業員から突然休暇を求められる可能性も高くなり、これによって人手不足が生じたり、ひいては業務の持続性に影響を及ぼす可能性もあります。会社の従業員管理の困難が増し、より大きな不確実性がもたらされることになるでしょう。

3. 『人口・計画出産法』の修正手続き等のため、二人っ子政策が実際に発効し、具体的に施行導入されるまでには、まだ一定の時間を要すると考えられます。この過渡期において、一部の人が、新たな政策が施行される前に妊娠する「フライング」をして、施行後に出産するという事態も起こりかねません。従業員がこのような行動に出る場合、会社に隠すという不誠実な方法がとられることにより、会社の人事管理面での不確実性リスクがますます増大する可能性があります。こうした従業員による不誠実リスクに対処するため、会社として一日も早く「労働契約」および「就業規則」等会社の規則制度を法律にのっとって見直したり、修正したりして、会社が十分な法的根拠をもって従業員の不誠実な行為に対し処分を下せるようにしておく必要があります。こうした措置を怠った場合、現行の法律の規定のみにより処分を行うことが難しい場合も出てくるでしょう。

◇日系企業の皆さまにご留意いただきたいポイント

これまで35年間行われてきた一人っ子政策に代わる新たな政策は、少子高齢化に対応するための一つの国策であり、中国社会の各分野に対して広範かつ非常に大きな影響を与えることが予想されます。日系企業の皆さまにおかれましても、新たな政策の短期的、中長期的な影響を早急に把握いただき、個々の会社の人事管理制度と対応する社内規則を適時に調整していただくことが、大変重要ではないかと存じます。

中車、アンゴラから高速鉄道車両受注＝総額145億元

7日付の中国紙・中国証券報（A7面、B1面）によると、鉄道車両メーカー最大手の国有企業、中国中車は同日の公告で、2015年11月の受注状況を発表した。大型受注は7件で、受注総額は145億2000万元だった。

この中には、アンゴラ当局から4億6000万元で受注した高速鉄道車両「動車組」も含まれている。その他は、主に中国鉄路総公司からの受注で、機関車や貨物車両、客車を納入する見込み。

子会社の南車青島四方機車車両が成都（四川省）や仏山（広東省）向けの地下鉄車両を20億9000万元で受注した。（上海時事）

中信重工、セメント設備受注＝カンボジアから1.5億ドルー河南

7日付の中国紙・中国証券報（B8面）によると、上海証取に上場するセメント設備・鉱山設備メーカーの中信重工機械（河南省洛陽市）はこのほど、カンボジアのセメント会社ティップ・モン・インセ・セメント（CMIC）からセメント設備の設計・調達・建設（EPC）業務を受注した。

受注総額は1億5400万米ドルで、現地に日産5000トン級のセメント工場が建設される。工期は2年の予定。

CMICは、カンボジアの複合企業ティップ・モン・グループがタイのセメント大手サイアム・シティー・セメント（SCCC）と合弁設立した。（上海時事）

LCCの九元航空、新疆の域内路線開設

中国のニュースサイト中国新聞網が4日伝えたところによると、上海の吉祥航空（示へんに羊）傘下の格安航空会社（LCC）、九元航空は、新疆ウイグル族自治区内の主要都市を結ぶ路線に参入した。開設したのは、首府ウルムチとイリ・カザフ自治州グルジャ市（伊寧）を結ぶ路線で、乗客147人を乗せたウルムチ発の第1便が3日、グルジャの空港に到着した。

新路線は、ボーイング737-800型機（189席）を使用し、1日に1往復運航する。自治区内路線へのLCC就航は初めて。九元航空は、ウルムチーグルジャ線の片道を9元、99円で販売するキャンペーンを不定期に行う。（上海時事）

東方航空、西寧ー香港線開設＝西安経由で週3便ー青海省

中国のニュースサイト中国新聞網が4日伝えたところによると、中国の東方航空は3日、陝西省西安を経由して青海省西寧と香港を結ぶ定期便を開設した。西寧曹家堡空港にとって、バンコク便やソウル便、台北便に続く4番目の海外路線になる。

香港便はエアバスA320型機を使用し、毎週火、木、土曜の週3便で往復運航する。午前7時30分に西寧を出発し、午後1時35分に到着。戻りは香港発が同2時35分、西寧着が同7時30分。（上海時事）

独企業が重慶にMEMS製造拠点

ドイツの電機メーカー、デルソン・エレクトリック社の現地法人、重慶徳爾森伝感器技術は3日、重慶市両江新区水土開発区に2億8000万元を投じ、MEMS（微小電気機械システム）の研究開発（R&D）・製造拠点を設立することを決めた。4日付重慶商報が伝えた。